

## 名家語録

○ 余は童子に對して之を敬するの意は成人に對するよりも深し。余は街頭に童子を見る毎に襦袢の衣を着すと雖も、吾れ之を敬禮すべきの義務あるを感ぜずんばならず、何となれば其の衣底に何等の將來を抱藏するや測る可からざればなり(カーフィールド)

○ 世人は兎角小兒の性質を以て知り易しと爲せども、是れ實に最も奥妙なる秘密なり。見よ、世の父母たるものが自から膝下に養育せる己れが兒子の資質(其の特性の常に現はるゝに拘らず)を如何に常に誤認するかを。饒舌快口なる豎子は其の元氣盛にして輕剽潑々たるの故を以て非凡の才童と思はるゝ傍ら、其の靜默して沈み勝ちなるの故を以て誤つて天才をば不才と做すこと毎々あるにあらずや(ピーコンスフィールド)

## ● フレーベル會總會

本會總會は去月十八日午後一時より東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て催されました。君が代合唱の後中川會長の開會の辭を以て會を開かれ會務會計報告について農商務省書記官鶴見左吉雄氏の我國及歐米に於ける玩具製造に就ての講演及び東京音樂學校長湯原元一氏の幼稚園雜感と題する講演がありました。尙ほ又丁度上京中の本會客員奈良女子高等師範學校長野尻精一氏のフレーベル會に就ての有益なる演説を得ましたのは、特別に幸としなければなりません。それより議事に入り、全國幼稚園關係者大會に就きフレーベル會が主催者となり又盡力すべきことにつき出席會員一同の賛同を得、満場一致之れを可決せられました。終て陳列品の參觀及茶菓の間に各自隨意の懇談を交へ散會しましたのは五時でありました。來會者場に満ち頗る盛會でありました。